

# 国語科学習指導案

第5限 1年1組 (1年1組教室)

男子15名 女子18名 計33名

指導者 T1 渡部 祐理

T2 有山 博子

## 1 単元名 記録のしかたを工夫する

### 2 単元について

#### (1) 単元設定の理由

中学校生活の中で、学級日誌や委員会の記録等、他の人が読んだり、他の人に報告したりするための記録を書く機会は多い。そういった記録の場合、伝えるべき情報を選び、要点をまとめるといった工夫が必要である。本単元では、既習単元「情報を的確に聞き取る」と関連付けて、記録するための目的を「不在の相手」と「学級全体」に伝えることとし、異なる相手を意識させることで、それぞれの工夫点を考えさせたい。また、実際に参加した委員会での話し合いを記録の材料とすることで、実生活に生きる学びを生徒自身の気づきを通して得させたい。

#### (2) 生徒の実態

本学級は活発に意見を発表する生徒は多いが、課題に対してじっくり考えたり、相手の思いや意見に耳を傾けたりする態度がまだ育っていない。そこで、本単元では、電子黒板やホワイトボードを活用することで生徒の思考の視覚化を図り、自他の考えの比較と意見交換をスムーズに行うための手立てとしたい。さらに、自己の変容を学びとして捉えられるようなワークシートの形式と活用場面を工夫することで、「学び合う」喜びを生徒に実感させたい。

### 3 本校の研修主題及び学習指導要領との関連

自ら考え、共に学び合う子どもの育成  
— 9年間の学びを見通した学習指導の推進 —

本校ではこれまで、他と協働して気づきを得る「学び合い」活動の在り方についての研修に重点を置き、その手段として言語活動の充実を図ってきた。国語科はその土台を築く教科であり、本単元のように取り立てて「話す・聞く」「書く」力の育成を図る授業を実施することも多い。さらに、今年度は小・中学校の「学びの接続」も意識した単元構想を心がけている。

中学校学習指導要領国語編では、第1学年「B書くこと」の指導事項として「オ書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の用い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること」が挙げられている。小学校第5学年及び第6学年の「オ 交流に関するもの」として挙げられている「カ書いたものを発表し合い、表現の仕方について助言し合うこと」を受けて、個々の受信力・発信力の差を利用した交流活動を授業の軸に据え、生徒が気づきを得る場面を「山場」としたい。

### 4 単元の目標 相手に理解してもらうために、項目立て等の表現方法を工夫して書くことができる。

### 5 全体計画 2時間(本時2/2)

次	学 習 課 題	学 習 内 容	時間
1	委員会から学級への「お知らせ」を工夫しよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自が、前日の委員会で、欠席した委員への連絡メモを分かりやすく記録できたか相互評価する。</li> <li>各自で、欠席した委員への連絡メモを、学級への「お知らせ」に書き換える。</li> </ul>	1
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>個で作成した「お知らせ」をもとに、各委員会で、分かりやすい「お知らせ」を作成する。</li> <li>各委員会の「お知らせ」を相互評価し、工夫点を学び合う。</li> <li>他の工夫点を取り入れて、各自が「お知らせ」を推敲する。</li> </ul>	1 本時

6 本時の学習

(1) ねらい

- ・書いた文章を互いに読み合い、相手を意識した材料の用い方や構成の工夫について考え、自分の表現に取り入れることができる。

(2) 展開

学 習 活 動 (配時)	指 導 上 の 留 意 点	評 価 の 観 点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の課題を確認する。(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学びからの発展ポイントとして伝える相手を「学級全体」にすることを確認する。(T1)</li> <li>・学習の流れが分かるようにワークシートの形式を工夫することで、学習の見通しをもたせる。</li> </ul>	
<p>委員会から学級への「お知らせ」を工夫しよう。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の工夫点を明らかにする。(2)</li> <li>[課題に対する個の考えをもつ]</li> <li>・個で考えた案をもとに、委員会ごとの班で「お知らせ」を作成する。(10)</li> <li>[課題について班で学び合う]</li> <li>・各班が作成した「お知らせ」を相互評価し、具体的な工夫点を学び合う。(20)</li> <li>[課題について全体で学び合う]</li> <li>・全体の場合での学びをもとに、もう一度「お知らせ」を作成する。(10)</li> <li>[全体での学びを個に返す]</li> <li>・本時の活動を振り返り、自己評価する。(5)</li> <li>[自己の変容を自覚する]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の考えを比較できるように、まずは個の考えを明確にさせる。(T1)</li> <li>・授業者の指示への理解が難しいと予想される生徒を支援する。(T2)</li> <li>・「よいものを選ぶ」のではなく「よりよいものを作る」話し合いになるように机間指導する。(T1、T2)</li> <li>・相互評価で自他の意見を比較し、その学びを共有できるようにホワイトボードを活用する。</li> <li>・相互評価では、ネームプレートを用いて、自身の立場を明らかにした上で、その根拠となる気付いた工夫点を発表させる。(T1)</li> <li>・生徒の発言からキーワードを取り上げた板書で、思考の視覚化を図る。(T2)</li> <li>・学校生活に生きる適切な「お知らせ」となるように、委員会の願いや学級の現状を踏まえさせる。(T1)</li> <li>・机間指導により大きな変容が見られる生徒を把握し、全体の場合で紹介する。(T2)</li> <li>・学び合い前後の「お知らせ」を比較して、自己の工夫点を振り返らせる。(T1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の「お知らせ」を比較することで、材料の用い方や構成の工夫を見付けることができたか。</li> <li>【読む能力】 (ネームプレート・発表)</li> <li>・自他の「お知らせ」の比較を通して得た学びを、自分の表現に取り入れることができたか。</li> <li>【書く能力】 (ワークシート)</li> </ul>

(3) 本時の視点

- ・本時の交流活動は、生徒一人一人の気づきを促し、考えを深める上で有効であったか。